

令和6（2024）年3月  
金城大学附属西南幼稚園  
園長 山田 紀子

## 令和5年度 金城大学附属西南幼稚園 学校評価報告書

### <はじめに>

幼稚園は、教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならない。（学校教育法、学校教育法施行規則）

幼稚園における学校評価は、以下の3つを目的として実施するものとされている。（文部科学省『幼稚園における学校評価ガイドライン [平成23年改訂]』）

- ① 各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- ② 各学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- ③ 各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講ずることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

評価の形態には、以下の3つがある。

- ① 自己評価：各学校の教育活動などの状況について自ら行う評価（法令上、実施及び公表の義務がある。）
- ② 学校関係者評価：保護者、地域住民等の学校関係者などにより構成された評価委員会等が、自己評価の結果について行う評価（法令上、実施及び公表の努力義務がある。）
- ③ 第三者評価：学校運営に関する外部の専門家を中心とした評価者により、自己評価や学校関係者評価の実施状況を踏まえつつ、教育活動その他の学校運営の状況について専門的視点から行う評価（法令上の義務付けはない。）

今年度、本園では「自己評価」及び「学校関係者評価」を実施した。本報告書は、この2つの評価結果と今後の改善方策を取りまとめたものである。

## <実施概要>

### ● 自己評価

#### (1) 教育の質・教育・保護者理解について

教育方針として「あそびが充実し、学びが深まる教育」、また、令和5年度の重点目標として「少人数保育の中で学びを深めるためにはどのような環境や経験が必要であるか～子どもたちの育ち合いを高めていく～」の実践を掲げ、到達目標は「好きなことを見つけ、『安心』、『熱中』のもと、あそびを展開する」とした。評価項目は「あそびの中で十分に体を動かす楽しさを味わう」、「教師や友達と一緒にあそびを進めていく楽しさを味わう」、「身近な物や遊具・自然に興味を持ち、考え・試し・工夫してあそぶ」、「教師や友達と会話を楽しみ、相手に伝えようと工夫する」、「好きなあそびを十分に楽しみ、のびのびと表現する楽しさを味わう」の5項目とした。評価指標としては「努力指標」、「成果指標」、「保護者満足度指標」の3指標を設定し、自己評価を行った。

評価の流れは、毎月の月案（ひと月の教育計画）、毎週の週案（1週間の教育計画）を作成し、これらの結果の振り返りを通して自己評価を繰り返し、さらに、3月には各クラス担任が「自己評価表」及び「自己評価シート」を作成し、保護者を対象として実施したアンケート調査の結果も踏まえて自己評価結果を取りまとめた。

#### (2) 保健・安全について

今年度、防災マニュアルや防災備品・備蓄の見直しや、津波を想定した大学・小学校4階への避難訓練や引き渡し訓練など、安全面の見直しや実施を重点的に行った。評価指標は計画どおり実施できたかどうかとし、自己評価を行った。

### ● 学校関係者評価

評価員は、PTA会長を含む保護者2人、隣接する松陽小学校の校長、金城大学短期大学部教員の合計4人に依頼した。感染症対策のため、評価員には書面にて自己評価結果を報告するとともに、評価表への記載を依頼した。

<結果>

● 自己評価結果

① 教育の質・教育・保護者理解についての自己評価

- 教育方針：あそびが充実し、学びが深まる教育。
- 教育目標：一人ひとりの個性を伸ばしながら、人間形成の基礎を養い、自主的にあそべる子どもを目指す。
- 令和5年度の重点目標：少人数保育の中で学びを深めるためにはどのような環境や経験が必要であるか  
～子どもたちの育ち合いを高めていく～

○ 具体的活動：

- \* あそびの中で十分に体を動かす楽しさを味わう
- \* 教師や友達と一緒にあそびを進めていく楽しさを味わう
- \* 身近な物や遊具・自然に興味を持ち、考え・試し・工夫してあそぶ
- \* 教師や友達と会話を楽しみ、相手に伝えようと工夫する
- \* 好きなあそびを十分に楽しみ、のびのびと表現する楽しさを味わう

評価指標	実現状況の達成度判断基準	自己評価(※)
<p><b>【努力指標】</b></p> <p>子どもの小さな興味・関心から始まる主体的な遊びや活動を大切にし、その中で生まれる話し合いや試行錯誤する姿などのプロセスを大切にする。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>安心して園生活を送る中で、友だちと関わる楽しさや遊びから得られる充実感、やり遂げようとする姿勢を育てる。</p>	<p>A：十分達成されている</p> <p>B：達成されている</p> <p>C：あまり達成されていない</p> <p>D：取り組みが不十分である</p>	<p style="text-align: center;"><b>B</b></p> <p>A評価：2人</p> <p>B評価：2人</p>
<p><b>【成果指標】</b></p> <p>好きなことを見つけ、「安心」、「熱中」のもと、遊びを展開する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したり、充実感をもってやり遂げるようになる。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">協同性</p>	<p>A：できている</p> <p>B：ほとんどできている</p> <p>C：あまりできていない</p> <p>D：できていない</p>	<p style="text-align: center;"><b>B</b></p> <p>A評価：2人</p> <p>B評価：2人</p>

<p><b>【保護者満足度指標】</b></p> <p>園生活を通じて、わが子の成長を感じ、満足している。</p>	<p>A：十分満足している</p> <p>B：満足している</p> <p>C：やや満足している</p> <p>D：不満である</p>	<p><b>B</b></p> <p>A 評価：1 人</p> <p>B 評価：3 人</p>
---	--	---

(※) 自己評価の結果は、各クラス担任（4人）の評価から総合的に判定した。

② 各クラス担任等による取組状況・自己評価

クラス等	取組み状況・自己評価等	課題・改善策等
<p><b>満3歳児</b></p>	<p>初めての集団生活で不安な気持ちの子どもたちが安心して遊べるように、一人ひとりの好きなものを見つけ、丁寧に関わっていった。</p> <p>2学期後半からは、ハサミやセロテープを使い、新聞紙、チラシ、空き箱等でのあそびにも自分たちの工夫が見られるようになる。</p> <p>生活面において食事やトイレトレーニングは、一人ひとりの成長に合わせて声掛けをし、焦らずに行うことで、園児が落ち着いて自ら進んでできるようになってきた。</p>	<p>静と動の保育を一日の間にバランスよく取り入れるように気を付け、同じ室内だけでなく、自然に触れる活動を行うことで、子どもたちは新たなあそびを見つけ、友だちとの関わりも生まれていた。</p> <p>子どもたちの育ち合いを高めていくには、教師同士の連携・共通理解を深め、研修等でスキルを身につけ、保育の質の向上を目指すことが必要であり、今後の課題である。</p>
<p><b>3歳児</b></p>	<p>園生活に慣れてくると、年中児のしているあそびに興味を示したり、真似をしたりして楽しめるようになってきた。行事では、満3歳児や年中児と一緒に取り組むことが出来、成長も見られた。</p> <p>少人数ということで、子どもたちも教師を頼りやすい環境でもあり、手伝ってしまう場面が多かったが、異年齢児とのかかわりが増えてくると少しずつ緩和されてきた。</p> <p>子どもたちの姿を温かく受け止めてくれる保護者との連携が、園生活を楽しく過ごせることに繋がった。</p>	<p>年中児との行事やあそびの体験は、一人ひとり自信を持って園生活を過ごせるようになった一因である。</p> <p>一方、年下児との関わりについては、どう関わればよいかわからず戸惑いが見られた。一緒に過ごす楽しさや嬉しさが感じられるように子どもたちの様子や姿を大切にしながら援助し、教師自身が関わっていく事を考慮して、保育を進めていきたい。</p>

<p><b>4 歳児</b></p>	<p>進級当初は、気の合う友だちとあそびを楽しんでいるが、自分の思いを一方的に通そうとする姿や、自分の思いを伝えられずあそびから抜けてしまう姿がまだ見られた。そのため、一人ひとりの興味のあることや得意なことをクラスの中で認めながら、信頼関係を築いていった。行事を通しての異年齢児の関わりは、それぞれの子どもたちの成長に繋がっていった。</p>	<p>少人数であるため、教師があそびに加わることがどうしても多くなる。大人が入りすぎることで、子ども同士の育ちの妨げになっているのではないかと考える。</p> <p>子どもたちが仲間と一緒に工夫したり協力したりして、一緒に過ごす心地よさが経験できるように生活の環境を整え、一人ひとりを大切に保育・教育に取り組んでいきたい。</p>
<p><b>5 歳児</b></p>	<p>担任が持ち上がりということもあり、進級当初から安心して自分の思いを表現し、好きな遊びに熱中する姿が見られた。それゆえに、自己主張の強い子の意見が通ってしまうことが多く、特定のグループの枠を超えた関わりが持てるように、勝敗のある集団ゲームなど、子どもたちが主体的に楽しめる環境を作っていた。</p> <p>このような取り組みから、自分の思いを伝えていく事の大切さを感じ、自信を持って意見が言えるようになり、他児の意見も受け入れられるようになってきた。</p>	<p>様々な場面においてそれぞれの意見が尊重されることによって、自信を持って発言や行動ができるようになってきた。</p> <p>少人数のため、つい教師が声をかけすぎたり先走ったりすることが多くなるが、子ども同士がお互いに高め合えるよう見守ることを心がけていった。その結果、これまで消極的だった園児も意見が出せるようになってきた。</p> <p>少人数であるからこそ、一人ひとりの思いが反映しやすいことを生かし、子どもたち自身で出来る活動を大切にしていきたい。</p>
<p><b>総括</b></p>	<p>少人数保育の中で学びを深めるために、どのような環境や経験が必要であるかを考えていく中で、それぞれの教師は少人数であるが故の困難さを掲げている。</p> <p>子どもたちが夢中になって遊んでいる中で、教師がかける言葉は遊びを変えてしまうくらい影響するこ</p>	<p>幼稚園教育要領に記載してあるように、幼稚園教育で最も重要なことは「環境を通して教育を行うこと」である。その環境で大切なのは人的環境である保育者である。子どもたちが主である生活や遊びが営まれるように、一人ひとりの子どもの思いを理解し、教師が入り込みすぎず</p>

	<p>とが多々あるため、どのような遊びを楽しんでいるのかをよく見極める必要がある。そのことが、子ども理解に大きく繋がっていく。</p> <p>子ども同士で高め合うには、異年齢児同士の自由あそびが大切になってくる。次年度は、これまで以上に枠を取り払い、教師自身が自由あそびの概念を根本から見直していく必要があると考える。</p> <p>そして、保護者との連携を密にして、子どもの遊びの意味を知り、安心して園生活が送れるように努めていくことが重要である。</p>	<p>に子どもが安心して過ごせるように見守り、異年齢児の保育に取り組んでいくことが大切になる。</p> <p>幼児期は、自然に触れ合うことが最も重要な時期である。園庭のみならず四季の自然を感じる園外活動を十分に体験していく事は、とても重要である。</p> <p>自由あそびの時間を大切にし、子どもたち自身が考えたあそびや活動をいかに実現していくかは、次年度の大きな課題である。</p> <p>自己研鑽を積む研修にも個々に力を入れていく必要もある。</p>
--	---	---

③ 保護者アンケート結果（令和6年2月28日実施）

Q1 本園の教育方針「あそびの中に学びがある」。子どもたちは幼稚園でたくさんあそび、学んでいると感じますか。（回答者 24人）

- 「あてはまる」 83%
- 「だいたいあてはまる」 17%
- 「あまりあてはまらない」 0%
- 「あてはまらない」 0%

Q2 友だちとかかわることの楽しさが育っていると感じますか。（回答者 24人）

- 「あてはまる」 83%
- 「だいたいあてはまる」 17%
- 「あまりあてはまらない」 0%
- 「あてはまらない」 0%

Q3 自分に自信をもって自分なりのやり方でやろうとする姿が見られるようになったと感じますか。（回答者 24人）

- 「あてはまる」 67%
- 「だいたいあてはまる」 33%
- 「あまりあてはまらない」 0%
- 「あてはまらない」 0%

Q4 西南幼稚園は、子どもの興味・関心から生まれることを大切にしてくれていると感じますか。（回答者 24人）

- 「あてはまる」 92%
- 「だいたいあてはまる」 8%
- 「あまりあてはまらない」 0%
- 「あてはまらない」 0%

Q5 運動会や発表会など行事を通してお子様の成長を感じますか。（回答者 24人）

- 「あてはまる」 83%
- 「だいたいあてはまる」 17%
- 「あまりあてはまらない」 0%
- 「あてはまらない」 0%

Q 6 今年度は、保護者の皆様にもご協力いただき、大学4階での引き渡し訓練を行うことができました。今回の引き渡し訓練について、ご意見・ご感想等がありましたらお聞かせください。

また、今回大きな地震があったことにより、お子様が受けた影響や変化を感じることはありませんでしたら教えてください。

その他、ご家庭で防災について気を付けていることや備えていること、取り組んでいることなどありましたら教えてください。(抜粋)

\* 大学4階を大人でも上がるのにきつく思いましたが、子ども達が頭巾を被り避難をする姿を見て何があるか予想もつかないため、経験は必要だと思いました。

\* 子どもから津波を想定しての避難訓練の時は、大学4階まで上がっていることを聞いていましたが、実際に階段で上がってみるとなかなか大変でした。子ども達はもちろん、先生方も子どもを避難させつつ階段を上るのは一苦労だと思います。命を守るための訓練を真剣にしていることに感謝の気持ちでいっぱいです。

\* 地震が起きてすぐはニューステロップに怖がったり、地震という言葉に敏感になっていました。最近では「地震ごっこ」と机の下に潜ったり、揺れたり子どもながらに恐怖を消化していっているように感じます。また避難訓練を理解して取り組んでいるようで降園後によく話してくれます。

防災のために備えていますが、子どもの物でどんなものが有効か共有して欲しいです。

\* 今回の地震が起きたときから一人でトイレに行けなくなりました。現在は戸が開いていれば大丈夫になりました。また寝ている時や途中で起きた時など、側にいるか確認してきます。ニュースや大人の会話に地震という言葉が出てくると「疲れるから違う番組にかえて。話をしないで。」と言ってきます。

\* 以前から自宅に水・簡易トイレ・避難リュックはありましたが、今回の地震で避難リュックをもう一度確認し、電気を使わなくてもよい灯油ストーブを購入しました。

\* 家庭では防災無線に放送がはいた時は遊びをやめて聴くことや、いろんな場面や時間帯で「もし地震があったらどうする？」という想定のお話をたまにしています。

保護者アンケートの結果、保護者に、本園の教育成果をおおむね評価していただいている様子うかがえた。



④ 保健・安全についての自己評価

○ 評価指標：保健・安全に関する事項について、計画通り実施できたか。

- A：十分達成されている
- B：達成されている
- C：あまり達成されていない
- D：取組が不十分である

○ 自己評価：A 年度当初に予定した計画を全て実施することができた。

● 学校関係者評価結果

評 価 項 目	評 価
<p><b>【教師の質】</b></p> <p>昨年度の課題から「教師の関わり方」、「子どもを読み取る力」を更に高める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育内容、ケース会議、カンファレンスを丁寧に行い、教師間の共通理解、幼児理解を深める。</li> <li>2. 金城大学短期大学部「中村先生」による園内研修を開催し、教師の質の向上を図る。</li> <li>3. 園外研修に参加し、教師間の質の向上を図る。</li> </ol>	<p>A：3人 B：1人</p>
<p><b>【教育】</b></p> <p>「少人数保育の中で学びを深めるためにはどのような環境や経験が必要か～子どもたちの育ち合いを高めていく～」に重点目標をおき、日々の教育に取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個の姿や集団の姿を丁寧に読み取り、関わりや環境を整える。</li> <li>2. 記録から、読み取りや幼児理解、振り返りを行い、次の教育に返していく。</li> <li>3. 自己評価の実施、自己評価シート作成を行い、教育活動の成果や課題点を明確にすることにより、次年度の教育に繋げていく。</li> </ol>	<p>A：3人 B：1人</p>
<p><b>【保護者理解】</b></p> <p>幼稚園教育の保護者理解・幼児理解・家庭教育の深まりを図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個の姿やクラスの様子を伝える（クラス・個人懇談会、クラス日より、連絡帳）             <ol style="list-style-type: none"> <li>① 教師の思いや願いを伝える。</li> <li>② 結果だけでなく、そのプロセスを伝える。</li> </ol> </li> </ol>	<p>A：2人 B：2人</p>

<p>③ どういった学びや成長に繋がるのか伝える。</p> <p>2. 場合により、電話で伝えたり、直接話し合う場を設ける。</p> <p>3. 行事を通して園での様子を見ていただく。</p> <p>4. 保護者アンケート実施</p>	
<p><b>【保健・安全】</b></p> <p>1. 水質、ダニ・アレルゲン、換気・温度・相対湿度、気流・浮遊粉塵、照度検査</p> <p>2. 安全点検：遊具危険箇所修理完了</p> <p>3. プール衛生点検</p> <p>4. 防災関連の見直し：防災マニュアル・防災用品・備蓄</p> <p>5. 防災訓練の見直し：津波を想定した大学への避難訓練、引き渡し訓練 11月2日（木）実施、小学校4階への避難訓練 2月28日（水）実施</p>	<p>A：3人</p> <p>B：1人</p>

### 【感想と所見】

- ※ 昨年に引き続き、明確な目標のもと重点的な取組、その検証改善が行われており、優れた経営がされていると感じた。
- ※ 子どもたちの主体的な姿を引き出すための計画的・意図的な環境構成、望ましい人間関係をつくるための心の教育、チーム保育、また迅速な防災計画等の見直し等々も、保護者、地域からの信頼の厚さにつながっていると思う。
- ※ 令和6年度の「混合クラス」の取り組みに期待している。
- ※ コロナが5類に移行したが、すぐにコロナ前に戻れるわけではなく、今までと同様に感染症対策について行う必要があり、教師の負担軽減にはつながらなかったように見えた。  
そのような環境でも、子どもたちの新しい学びや経験のために、多くの機会を提供していただけた。
- ※ 教師と保護者が継続的に話し合いを重ねることが、持続可能な運営につながっていくと感じた。
- ※ 各年齢の自己評価シートがあり、内容が分かりやすかった。
- ※ 自己評価シートから異年齢児との活動を取り入れようとする努力は感じ取れたが、他の園との交流を増やし、多様な考えを知る工夫を増やしていくことが必要だと思う。
- ※ 自己評価シートの中に子どもたちの成長の根拠となる記載が少ないため、PDCAを意識した記載にすると保育の質を可視化できるのではないかと思う。
- ※ 保護者理解については、保護者が園の教育についてどのように感じているのかが大切なため、教師がどのように理解し、関わっているのか等を具体的にわかると評価しやすいのではないかと思う。
- ※ 保健・安全に関して計画は立ててあるが、実施報告の記載がないため、根拠が分からない。具体的な実施報告を記載して欲しい。
- ※ 保護者アンケートに、能登半島地震や引き渡し訓練に関連した内容があり、保護者の意見を把握することができた。この意見に教師の省察があると、「保健・安全」の評価の根拠となるのではないかと思う。
- ※ 附属園として学生を育てていくことは必要なことであるため、大短との連携を図り、今後は会議等も行い、学生育成に手を携えて進んでいけたらと思う。

評価員4人からの評価について、4つの評価項目において、概ねA評価であった。また、「感想と所見」の記載から、本園が目指す園教育をご理解いただいていることを実感した。一方で、計画を立ててはいるがPDCAを意識した明確な記載が少ないとのご指摘もあり、日々の保育の省察を意識した記録のとり方などは今後の課題となる。

教育の質をより向上させるために、他園との交流を深め教師の視野を広げていくことも必要になると考える。園生活の場全てが幼児にとって大切な学びの場であるということを再認識し、令和6年度の混合保育に向けて保育活動の見直しを検討していきたい。

## ＜おわりに＞

今年度は、令和4年度に引き続き「少人数保育の中で学びを深めるためにはどのような環境や経験が必要であるか～子どもたちの育ち合いを高めていく～」という重点目標を掲げ保育を進めてきました。満3歳児から年長児まで、異年齢児との関わりあいで遊びが発展し、その遊びから生まれる新たな発見が良い刺激となり、子どもたちは日々成長しています。遊びが発展していくなかで、さまざまな考えを出し合い試行錯誤を繰り返し、挑戦していく姿を目にし、少人数ならではの保育の在り方の大切さを更に強く感じました。

教師は、遊ぶ姿を見守りその子の思いを受け止め、必要とされる環境を整え、子どもたち同士の繋がりを大切にしてきました。一人ひとりの思いを受け止めていくことで、子どもたちは安心して、集中して遊ぶことができおり、思いを受け止めることの大切さを改めて痛感いたしました。令和6年度は、「混合クラスの中で、異年齢クラスの子どもたちと年齢の枠を超え、共に学び合い成長していくためには、どのような経験や環境が必要か」を重点目標に掲げ、子どもたちの主体性を生かし、異年齢の子どもたち同士での育ちを大切にした保育を目指し、互いに育ち合える環境を整えていきたいと思っております。

今年度は年明けに震災があり、改めて自然災害の脅威を実感いたしました。我々教師は、大切な子どもたちの命を預かっているという意識をさらに強く持ち、避難訓練の在り方も再度検討いたしました。実際に大きな災害があった場合を想定し、隣接する松陽小学校のご協力を得て、避難訓練を新たに実施させていただきました。今後も更に大切な命を預かっていることを自覚し、訓練等を継続し実践していきたいと考えております。

最後に、保護者の皆様が常に子どもたちの声に耳を傾け、さまざまな取組にとことん付き合い、一緒に笑顔で楽しんでくださることが、私たちが目指す保育に繋がる力となっております。保護者の皆様からのアンケート結果をしっかりと受け止め、今後の幼児教育に生かしていきたいと考えております。たくさんのご意見を頂戴し、感謝申し上げます。来年度に向かって教師一同頑張っていきたいと強く感じております。来年度も引き続きよろしくお願いたします。